

【セグメント分析・活用シート】

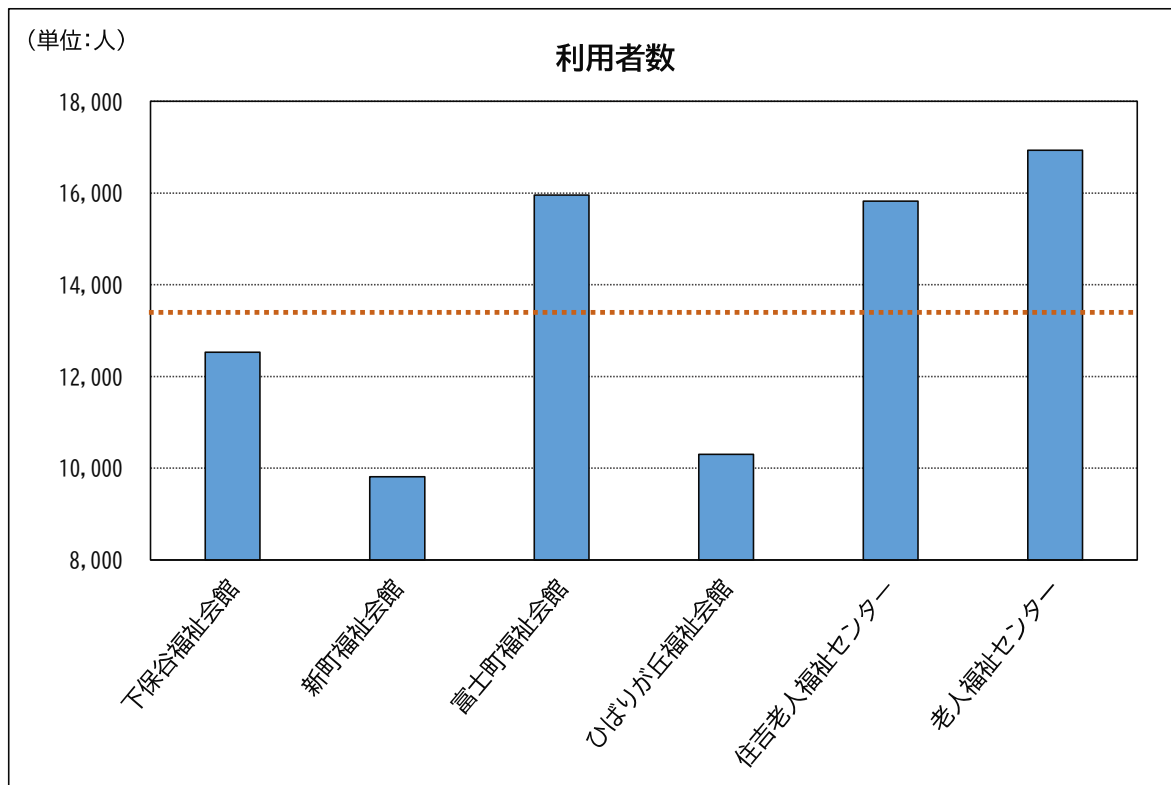
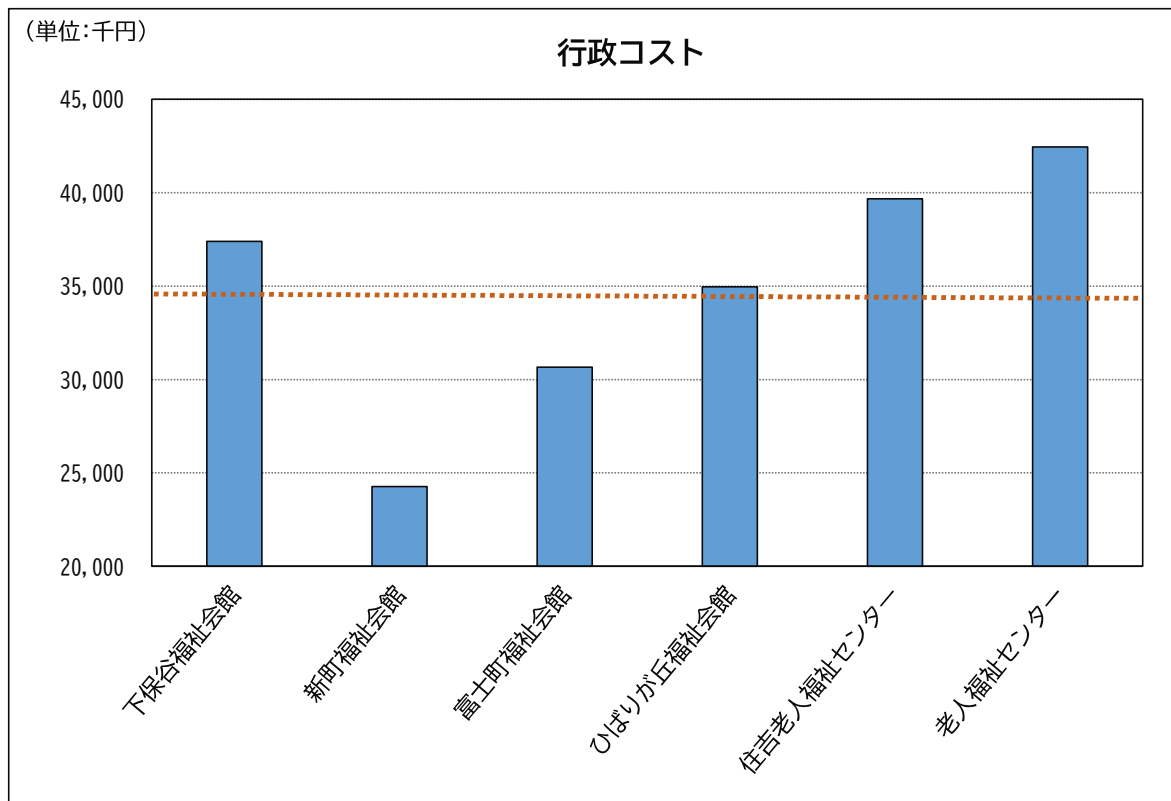
施設分野 高齢者福祉施設

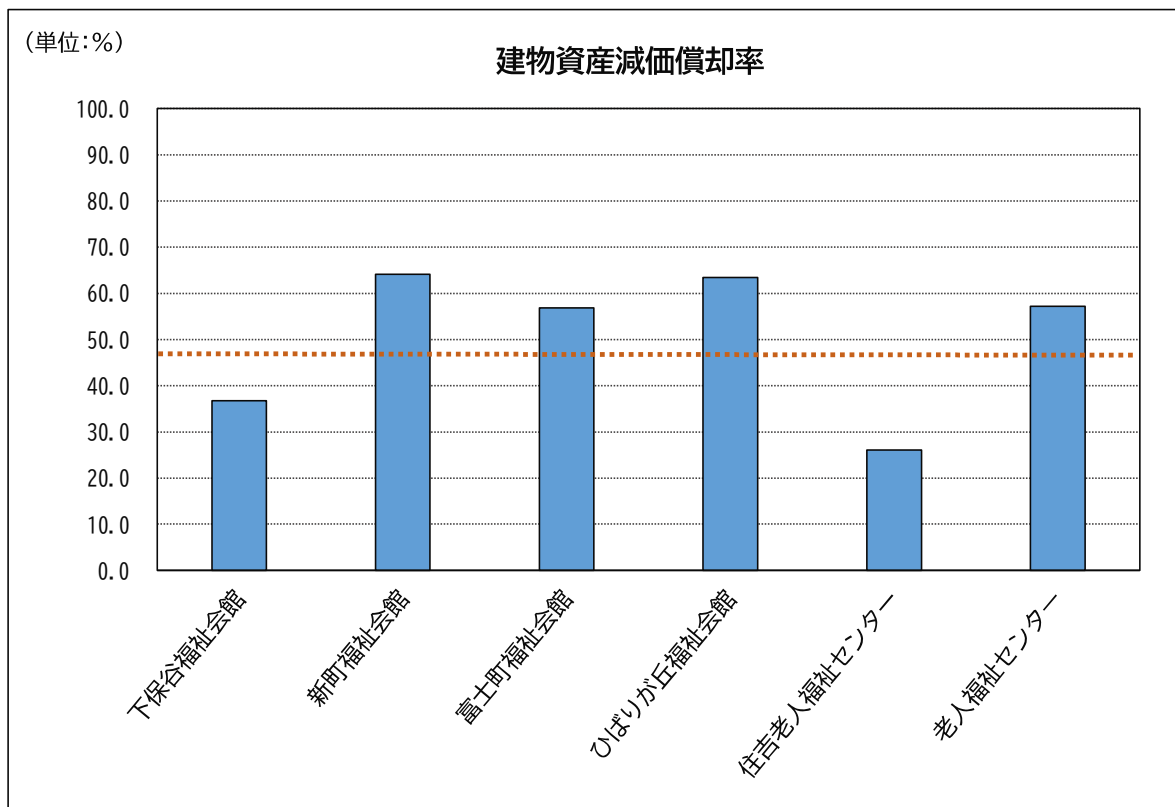
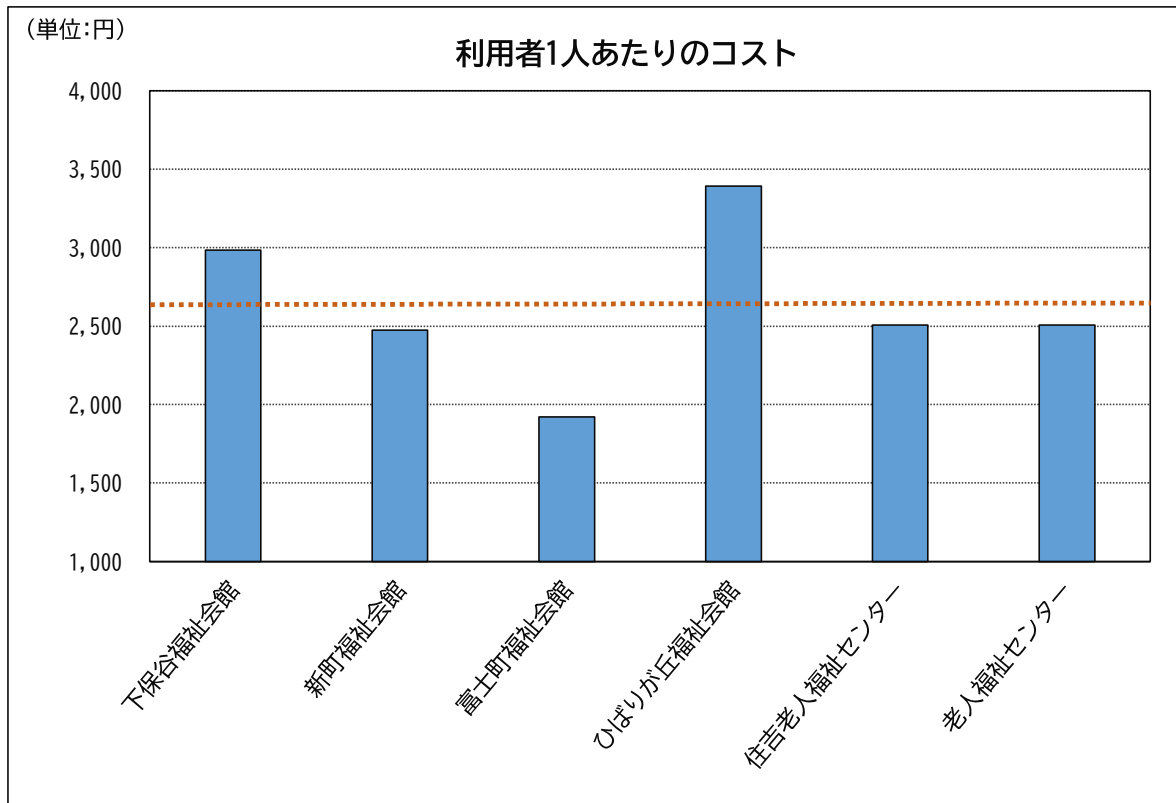
1 分析指標

施設名称	下保谷福祉会館	新町福祉会館	富士町福祉会館	ひばりが丘福祉会館	住吉老人福祉センター	老人福祉センター	平均
行政コスト (千円)	37,396	24,272	30,650	34,960	39,677	42,450	34,901
延床面積 (㎡)	1018.85	654.37	1085.62	1060.18	1214.98	584.16	936.36
1㎡あたりコスト (千円)	37	37	28	33	33	73	40
利用者数 (人)	12,534	9,810	15,954	10,306	15,820	16,933	13,560
利用者1人あたりコスト (円)	2,984	2,474	1,921	3,392	2,508	2,507	2,631
1日平均利用人数(人)	52	41	66	43	66	85	59
建物資産減価償却率 (%)	36.8	64.2	56.8	63.4	26.1	57.2	46.9

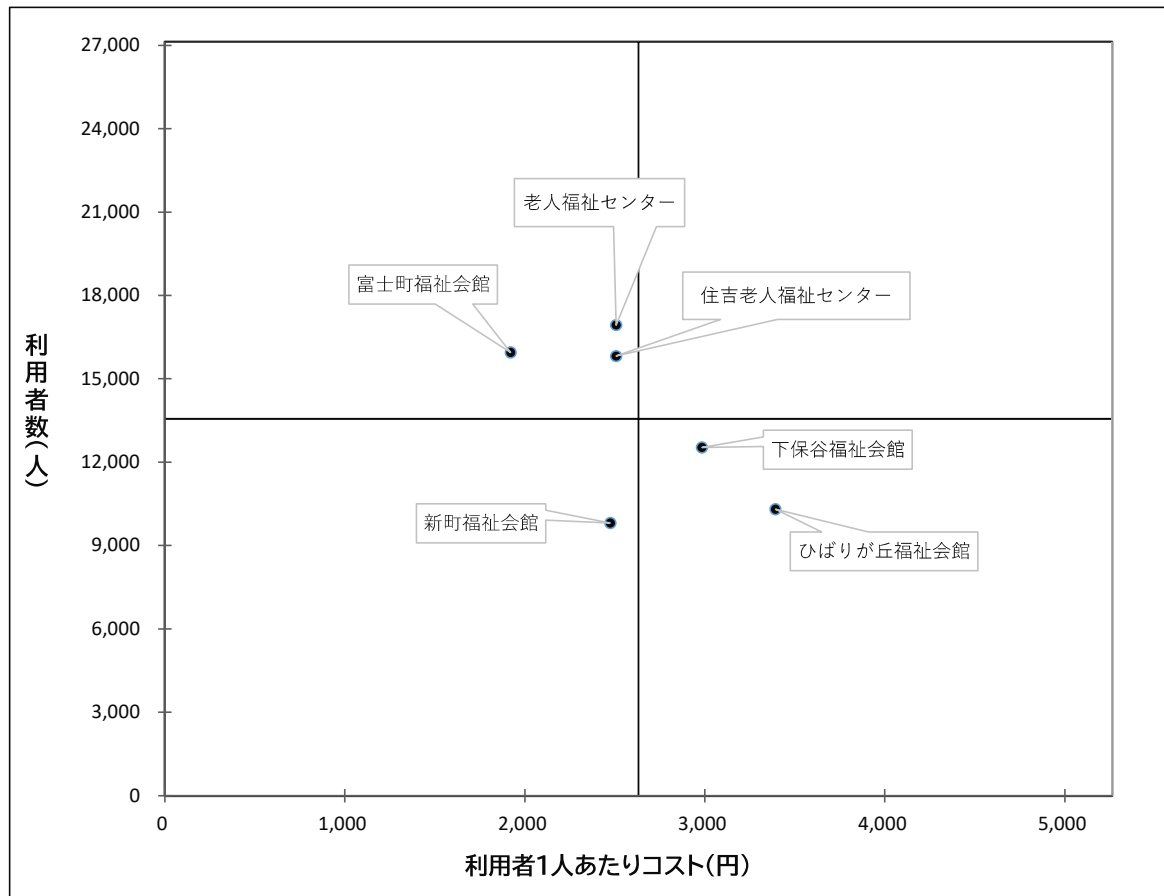
※谷戸高齢者在宅サービスセンター、高齢者センターきらら、老人憩いの家「おあしす」は、除いて分析しています。

2 グラフ分析





3 評価グラフ



4 評価グラフから見る主な分析

ひばりが丘福祉会館	ひばりが丘福祉会館は、市内北西部の市境に位置し、他の福祉会館と比べて地域団体が大人数で利用している傾向であった。しかし、利用定員数の制限を行ったことにより、活動が困難になった団体の利用控えの影響及び当館は単独館であり、夜間の地域利用にあたる警備委託料が他の複合館に比べ負担が大きいいため、1人あたりの行政コストが高くなっている状況である。
下保谷福祉会館	下保谷福祉会館は、市内北部に位置し、行政コストが他の福祉会館と比較すると高くなっている。これは、平成22年度に建設したことから建物資産減価償却費が残っており、他の福祉会館は、建物資産減価償却費がないためである。
新町福祉会館	新町福祉会館は、市内南部の市境に位置し、近隣地域以外からのアクセスが不便なことや部屋の規模から大人数の団体が利用困難なことから、他の福祉会館と比べて利用人数が少ない。ただし、延床面積も他の福祉会館よりも半分程度の面積のため、施設規模に応じた利用人数ともいえる。

5 現状に対する施設所管課の総括

ひばりが丘福祉会館	地域共生社会を目指して、会議室等については世代を問わず開放をしている。今後も、少子高齢化の進展やニーズなどを注視しつつ、施設の残存耐用年数や老朽化状況を踏まえた検討が必要である。 今後は、老朽化する施設に対する改修対応を行いながら、耐用年数まで使用できるよう適切に維持管理を行う。
下保谷福祉会館	施設建設後、10年を経過しており、建物の耐用年数の目安となる50年まで支障がなく使用できるように、適切な維持管理が必要と考える。 今後は、適切な施設の維持管理を行いつつ、今後発生する部分修繕などの行政コストを意識して対応を図っていく。また、地域ニーズを注視しつつ、利用者数を向上することで利用者1人あたりのコストの抑制に取り組む。
新町福祉会館	市境に位置し、延床面積も少なく、建物資産減価償却率も高い。これらの課題がある中、地域から親しまれ、大切に守られた施設である。これからも、地域ニーズとともに、課題解決に向けて検討していく。また、延床面積が少ないながらも、創意工夫により更なる利用度強化に向けて多世代間の地域利用に向けた検討を行う。また、建物資産減価償却率も高いことから、ニーズを踏まえた施設維持管理を図っていく。

